

社会科における教科の本質に迫る授業づくり

社会科 江口 麻衣子・山田 耀

1 教科の本質とめざす生徒の姿

現代社会は、貿易、人材、情報などのグローバル化が急激に進んでいる。一方で、イギリスのEU離脱、「アメリカファースト」といった国民主義の様相も見られるようになった。そのような中で、世界中で新型コロナウイルス感染症拡大が生じ、経済格差や人種差別問題など、一国だけでは解決しきれない問題が浮き彫りとなっている。このような世界で起こる複雑で困難な問題には、改めて広い視野に立ち、誰一人取り残さない国際協調の視点でよりよい社会の形成を目指す必要がある。

だからこそ生徒には、持続可能な社会の実現に向けて、正解のない問題や経験したことのない問題を他者と協働して解決して行ってほしい。そのために、社会科の授業を通して、多様な価値観や背景をもった他者と、主体的に対話をして知識や知恵を共有し、合意形成・問題解決を図る資質・能力を生徒に育みたい。ここに戦前の反省を踏まえ、民主主義を徹底し、よりよい社会を形成していくためにできた教科である社会科の本質があると考え。

【社会科における教科の本質】

持続可能な社会の実現に向けて、社会認識を基盤とし、現代社会に表出する諸課題を協働的に解決していこうとする公民的資質を身に付けること

【社会科における教科の本質を踏まえた生徒の姿】

社会的事象への興味・関心をもち、見いだした課題を多面的・多角的に考察することで概念を形成し、自分の考えを深めている

2 当校の生徒の実態と具体的な手だて

当校の生徒は、社会的事象に対して、様々な資料を基に自分の考えをもつことができる。その反面、自分の考えにとらわれ他の考えを受け入れなかったり、議論において他者に勝ちたいという気持ちが強くなり、感情的になったりすることがある。そのため、課題を解決しようと、様々な側面や、立場を踏まえて、よりよい考えを創り上げようとしたりする方向に気持ちが向きにくいところがある。

当校の生徒の実態と授業で目指す生徒の姿から以下の手だてを講じる。

〈手だてア〉

社会的事象と自分とのつながりを見出せる資料を提示する

社会的事象について、興味をもち原因や背景を主体的に追究させるために行う。社会的事象と自分の生活や自分の住んでいる地域とのつながりを見出せる資料を提示する。例えば、歴史的分野においては、身近な地域である新潟から歴史的な事象をとらえることのできる資料を提示する。生徒は社会的事象と自分とのつながりを見いだすことで、より自分事としてとらえ、原因や背景を明らかにしていきたいと考える。

〈手だてイ〉

生徒の振り返りを基に生徒自身が本時の課題を設定する活動を組織する

社会的事象について自ら課題を見いださせるために行う。授業の終わりに生徒に振り返りを書かせる。ここでは、課題に対する予想や新たな疑問などを書いていく。この振り返りを、次時の授業開始時に全体で共有し、疑問や明らかにしたいことから本時の課題を設定させる。さらに、課題解決のために必要な情報や学習活動を考えさせ、ゴールイメージをもたせて探究させていく。これにより、生徒は課題を自ら見いだす楽しさを実感していく。また、社会的事象についてのとらえを振り返りに書いていくことで、生徒は自身の変容を実感できるようにする。

〈手だてウ〉

自分の考えの妥当性について観点や立場を明示して検討する活動を組織する

社会的事象についての見方や考え方の変容を促すために行う。生徒の課題に対する考えの妥当性を互いに検討させる活動を組織する。その際に、資料を根拠に、どのような観点や立場から考えたのかを明示して検討させる。これにより、生徒は意見が異なったり、対立したりしている他者の考えの背景を理解し、その考え方のよさに気付くことで、協働的に考えていくことができる。そして、社会的事象を多面的に捉え、多角的に考察できるようになっていく。

〈手だてエ〉

課題解決の後に、単元を通して考察した社会的事象の構造を基に説明する評価課題を課す

社会的事象についての理解の深まりを実感させるために行う。課題を追究し解決した生徒に、社会的事象の構造を図式化させる。その上で、評価課題に取り組むことで、多面的・多角的に考察した成果が発揮され、概念的知識を導き出すことができ、単元での自身の学びの有用性を実感する。

【引用文献・参考文献】

- ・ 「公民的資質」とは何か-社会科の過去・現在・未来を探る-，唐木清志編，2016年
- ・ 新潟大学教育人間科学部附属新潟中学校研究紀要第48集，2003年
- ・ 新潟大学教育学部附属新潟中学校研究紀要第59，60集，2018年